

シンポジウム I 「創造を促す看護学のサイクリー研究と実践をつなぐ」

テーマ 「看護学科と共に支援する臨床の看護師の研究」

京都府立医科大学附属病院 教育担当副看護部長 橋元 春美

当院は、東に鴨川の清流、西に京都御所の緑を眺望できる恵まれた環境の中で、「世界トップレベルの医療を地域へ」を理念に、高度で安全な医療の提供に取り組んでいる。公立単科大学の附属病院として、高い倫理観をもち、自ら課題を探求し研究能力を有する優れた医療人の育成を使命と考えている。許可病床数 1065 床、看護師数 760 名(配置基準 7:1)、32 の診療科を有する特定機能病院である。

当院の卒後教育は、卒後 3 年までを基本的な看護実践能力を習得する期間として、経年的に教育プログラムを実施している。その後は、ジェネラリストを対象とした各種の研修を選択受講し、クリニカルラダーを受審している。クリニカルラダーは、「看護実践」「組織的役割遂行」「教育・研究」の 3 つの能力開発をめざし教育プログラムを実施してきた。なかでも看護研究については、まず導入として、研究倫理、研究計画デザインと研究計画書の作成、文献検索とクリティーク、データ分析、プレゼンテーションについて講義してきた。そして、部署単位で 2 年毎にテーマを決めて看護研究に取り組み、その成果は院内看護研究発表会での発表と看護部概況にまとめている。研究支援を希望する場合は看護学科に依頼しそのテーマに合わせた領域の教員の指導を受けてきた。これらの経過から、1) 研究能力向上に向けた教育プログラムの充実 2) 看護部内での看護研究支援者の育成が課題であった。

平成 21 年度文科省補助事業の「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択され、看護学科と連携して系統的な教育プログラムを開発、キャリア形成支援体制整備に取り組んでいる。本事業は、看護実践キャリア開発センターに配置した 2 名の看護職と事務員を中核として看護学科と看護部との活発な交流を基盤に両者の強みを生かして事業を推進している。

そのなかでも一人前看護師の看護実践能力をいかに育てるかに主眼をおいた「一人前看護師育成プログラム」の開発は、今回の主軸になる。看護臨床実践能力の構成概念を上記の 3 つとして、それぞれに看護基礎教育の最終学年である 4 年生～卒後 3 年までの到達目標を見直し、明文化した。研究能力の到達目標は、4 年生：卒業研究をとおして研究の基本的なプロセスと論文の形式が理解できる、卒後 1 年：文献検索の意義と方法が理解できる卒後 2 年：日々の実践に文献を活用することができる、卒後 3 年：事例研究のプロセスに沿って論文を作成できると段階的に設定した。次にその目標が達成できるようにまず、研究能力教育プログラムを整備した。具体的には一人前育成研修で、看護研究のプロセスと文献検索の講義・演習を実施し、事例研究の研究計画書と論文作成を行う。

次に支援システムの整備として、看護研究に取り組んでいる部署に研究デザインから論文の完成まで、3 名(看護学科教員 1 名、看護師 2 名)のスーパーバイザーによって支援する。これは、2 年間の成長を縦断的に承認・評価し、研究能力の向上とモチベーションの維持向上を目的としている。今後は、スーパーバイザーの育成を目的とした看護研究研修コースを計画しており、コース修了者がスーパーバイザーとして機能する継続的な研究支援体制を整備していきたいと考えている。

今年度末には事業の成果報告会も兼ね看護学科と看護部合同での看護研究会を開催する計画である。両者の研究や実践を共有し、相互に意見交換することにより、教育・研究と実践のつなぎの場として機能することを期待している。